

ヨシ群落縁辺部における仔稚魚等採捕調査結果

上垣 雅史・上野世司

◆背景・目的

ヨシ群落縁辺部において、外来魚および在来魚の仔稚魚等の発生・生息状況を把握するため、小型曳網を用いたヨシ巻き方式による捕獲調査を行った。

◆成果の内容・特徴

- 琵琶湖7地先のヨシ群落の縁辺部(図1)で、平成20年5月から7月にかけて計5回捕獲調査を行った。捕獲は調査員2名で小型曳網(図2)の両端を持ち、ヨシの株を巻くように囲い込んだ後、袋網に魚類等を追い込む方法で行い、1地先につき3カ所で捕獲した。
- 捕獲魚について総個体数ではワカサギが3,201尾(44.26%)と最も多く、次いでコイ科魚類1,933尾(26.72%)であった(表1)。総重量ではワカサギが365.44g(40.92%)と最も多く、次いでコイ科魚類267.73g(29.98%)であった。
- 調査地先別の個体数比較では牧地先が3,061個体と最も多く捕獲されたが、その97%がワカサギであった。次いで、海老江地先(丁野木地区造成ヨシ帯内側)が2,529個体であり、その56%はコイ科魚類が占めた。また、同地先は調査地先の中では最も多くの魚種が捕獲された。
- 山田地先では313個体の魚類等が捕獲されたが、そのうち303個体(97%)がオオクチバス、ブルーギルといった外来魚であった。

◆成果の活用・留意点

毎年、同調査を継続的に行うことで、外来魚を含めた仔稚魚の発生状況や生息動向の傾向を把握できる。



図1 調査地先

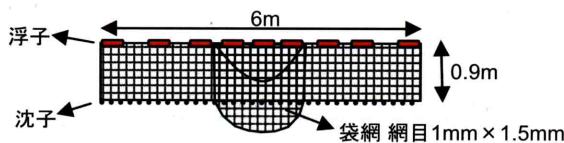


図2 調査に使用した小型曳網

表1. 魚種、調査地先別捕獲個体数

魚種	牧	山田	真野	新旭	岩熊	海老江	南浜	合計	割合
ワカサギ	2,958	1	53	3	1	1	184	3,201	44.26%
カネヒラ	4	1		229			31	1,508	20.85%
スマエビ	11				56	591	2	660	9.12%
スジエビ	19		1	5	222	354	4	605	8.36%
オオクチバス(0+)	45	296			4	28	171	544	7.52%
オイカワ	11		6	41	2	10	159	229	3.17%
ヨシノボリ	7	3		1	119	19	3	152	2.10%
フナ						124	1	125	1.73%
ブルーギル(0+)		7					86	93	1.29%
モツゴ					2	51		53	0.73%
ウキゴリ	6	1	9	3	1	11	7	38	0.53%
テナガエビ		4		2			1	7	0.10%
ヒガイ						4		4	0.06%
ホンモロコ			1			3		4	0.06%
ウグイ			3					3	0.04%
タイリクバラタナゴ						3		3	0.04%
ニゴイ					2			2	0.03%
ヤリタナゴ					1			1	0.01%
コイ						1		1	0.01%
合計	3,061	313	73	284	410	2,529	563	7,233	

*この調査は水産総合研究センターの委託事業「外来魚抑制管理技術開発事業」の中で実施した。